
第 20 回日中韓三カ国環境大臣会合 共同コミュニケ

2018 年 6 月 23 日、24 日 於：中国・蘇州市

前文

1. 2018 年 6 月 23 日～24 日に、李幹傑・中華人民共和国生態環境部長の招待により、中川雅治・日本国環境大臣と金恩京・大韓民国環境部長官は蘇州市を訪れ、第 20 回日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM20）を開催した。

2. 李部長と金長官は、2018 年 6 月 18 日に大阪を襲った地震により犠牲者と負傷者が生じた点について、日本側へ同情と哀悼の意を表明した。

TEMM20 の概要

3. 三大臣は、開会式において基調講演を行った。李生態環境部長は「生態系及び環境の保全促進と、クリーンで美しい世界の構築」、中川環境大臣は「日本国環境政策の最新動向」、金環境部長官は「持続可能な未来に向けて：韓国の主要な環境政策」を発表した。

4. 三大臣に対し、「日中韓三カ国環境協力及びその展望に係る報告」に関する説明が行われた。この報告は、過去 20 年間にわたる日中韓三カ国の環境協力の進展、成果及び協力から得られた有益な知見をレビューし、今後の協力の可能性と見通しを概説する。

5. サブフォーラムからは、三カ国環境ビジネス円卓会議、日中韓化学物質管理政策対話、日中韓黄砂共同研究 WG1/2 合同ワークショップ、持続可能な開発目標（SDGs）とグリーンファイナンスフォーラム、及び日中韓環境ユースフォーラムの代表者より、多様なトピックについて発表があった。

6. 三大臣は、日中韓環境協力功労者表彰式典で、受賞者を祝福した。中国より中国環境観測センターとフーミン（胡敏）氏、日本より後藤敏彦氏（注：特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事）と井村秀文氏（注：横浜市立大学特任教授）、韓国よりハン・セイデル財団とキム チェオルヘー氏が、三カ国間の環境協力への貢献に対し表彰された。

7. 三大臣は非公開会談を行い、日中韓三カ国の環境協力の強化に関して率直かつ詳細に意見を交換した。

8. 三大臣は、中国の旧環境保護部から、気候変動対策、海洋環境保全、地下水

汚染防止等を所管に加えた生態環境部が誕生したことで、日中韓三カ国の協力を推進する機会を拓がることを歓迎した。

9. 三大臣は、日中韓三国協力事務局（TCS）が日中韓三カ国環境協力の促進に果たした役割を好意的に認識するとともに、TCS が TEMM メカニズムへより広範に参画することを期待した。

20 年間にわたる協力の成果

10. 三大臣は、日中韓三カ国首脳会談の枠組の下で最も成功し、最も長期にわたり継続された三カ国協力メカニズムの一つである TEMM が、過去 20 年間において、日中韓三カ国の環境分野における緊密かつ効果的な協力により清浄で美しい北東アジアの構築に大いに貢献してきたことを祝福した。三大臣は、TEMM が環境及び持続可能な開発に係る地域協力促進に果たした重要な役割を認識し、TEMM の下での協力の継続とさらなる強化に向けた決意を再確認した。

11. 三大臣は、相互理解に基づく誠実な日中韓三カ国パートナーシップを称賛した。三大臣は、三カ国が示す、事実から真実を探求する科学的姿勢及び卓越なるものの追究と堅実に取り組む姿勢を特徴とするプロフェッショナリズムが、日中韓三カ国協力を深化させる強力な推進力となっていることを認識した。

日中韓三カ国環境協力における最近の進展

12. 三大臣は、日中韓三カ国首脳が第 7 回日中韓サミット共同声明において、TEMM 傘下で実施中の日中韓三カ国の協力活動を通じて得られた進展が高く評価されたことに勇気付けられた。

13. 三大臣は、「環境協力に係る三カ国共同行動計画（2015-2019）」（別添参照）に示された TEMM19 以降の進捗に満足の意を表した。

14. 三大臣は、特に三カ国の大気汚染に対する共同した取組や協力を一層強化することが切実に必要であることが強調された第 5 回大気汚染に関する日中韓三カ国政策対話（TPDAP）、ヒアリ等の侵略的外来種に関して情報を交換することや協力を強化することの必要性を改めて表明した第 4 回、第 5 回日中韓生物多様性政策対話（TPDBD）、ならびに生物多様性条約第 15 回締約国会議への貢献といった、多様な協力活動を通じて達成された重要な進展を祝福した。

15. 三大臣はまた、健全な物質循環型社会／循環経済／3R・電子廃棄物の越境移動に関するセミナーにおける、海洋ごみ及び災害廃棄物に係る TEMM-NOWPAP 合同ワークショップにおいてマイクロプラスチックに係る情報の共有が三カ国間で

達成されたという具体的進展を歓迎した。

16. 三大臣はまた、環境側面からの SDGs 達成のための三カ国共同研究の進展を歓迎した。

TEMM の今後の展望

17. 三大臣は、共通の利益に係る課題を解決するための共同の取組及び協力を一層強化するとする日中韓三カ国首脳の前約を誠実に実行し、「環境協力に係る三カ国共同行動計画」の各分野における協力を強化することの重要性を強調した。

18. 三大臣は、日中韓三カ国の環境協力が、持続可能な開発のための 2030 アジェンダ、パリ協定及び生物多様性条約等の実施のためのより積極的な対応策を通じて地球規模の環境問題の解決に貢献することを確信した。

19. 三大臣は、日中韓三カ国がともに手を携え、ASEAN+3 協力、東アジアサミット、APEC 及び G20 の枠組における対話と協力を強化すべきであることを確認した。三大臣は、環境分野における我々の開発の経験を共有し、実践的な協力を深化させることによって、北東アジア地域及びさらに広範な地域における持続可能な開発を促進するための「3+1」の様式を開拓する意思を共有した。三大臣は、G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合が、G20 の下での初の環境大臣会合として、2019 年 6 月に日本で開催されることを歓迎するとともに、同会合の成功に向けて協力する意欲を表明した。

20. 三大臣は、日中韓三カ国は相互の信頼、衡平、相互互惠、公開性及び透明性の原則に立って行動し、相互の発展段階の違いに配慮し、中央政府、地方政府、科学研究機関、企業や非政府機関等の多様なステークホルダーの参画を得て新たな協力の考え方や手法を追究し、トップダウン及びボトムアップによる協力の形態を形成し、より緊密な協力ネットワークを構築してゆく旨を改めて表明した。

21. 三大臣は、脱炭素化と持続可能な開発に向けた都市に関する共同研究について、これまでに実施された準備作業を歓迎するとともに、2018 年に同共同研究を開始することに合意した。

22. 三大臣は、「環境協力に係る三カ国共同行動計画 2020-2024」を共同で策定し、TEMM22 において承認することに合意した。

23. 三大臣は、北東アジア長距離越境大気汚染プロジェクト (LTP) の専門家による共同研究の取組みに感謝し、政策決定者向けサマリーレポートを遅くとも TEMM21 までに発行するために、LTP プロジェクト専門家によるその改訂作業を支援することに合意した。また、北東アジア環境協力プログラム (NEASPEC) との関

連で提案された北東アジアクリーン・エア・パートナーシップ（NEACAP）の価値を認識し、三大臣は、2017年10月の協議会合で合意された趣意書（TOR）に基づき、2018年10月に開催される第22回高官会合でNEACAPを創設するために協力することに合意した。

TEMM21

24. 三大臣は、TEMM21を2019年に日本で開催することを決定した。開催日、場所は主催国が提案し、その後、韓国と中国が追認する。

おわりに

25. 三大臣は、TEMM20が成功し実りある成果を収めたことに満足の意を表した。中川雅治大臣と金恩京長官が、李幹傑部長、中国政府、江蘇省政府及び蘇州市政府に対して、会議主催と参加国への手厚いおもてなしに感謝の意を表した。

李幹傑

中華人民共和國 生態環境部長

中川雅治

日本國 環境大臣

金恩京

大韓民國 環境部長官